令和5年度 第2回 鹿児島支部評議会の議事概要

開催日時	令和5年10月23日(月) 14:00~15:35
開催場所	鹿児島中央ビル6階 支部会議室
出席評議員	始良評議員、岩重評議員、佐野評議員<議長>、瀬平評議員、中村評議員、松元評議員、三浦評議員、山縣評議員(五十音順)
議題	<p>1. 令和6年度保険料率について</p> <p>2. 鹿児島支部の健康課題とその解決に向けた次年度事業方針にかかる意見伺い</p> <p>3. その他</p>
議事概要 (主な意見等)	<p>1. 令和6年度保険料率について 資料に沿って事務局より説明。 <主な意見と回答> (議長) 論点である、①令和6年度及びそれ以降の保険料率のあるべき水準について、どのように考えるか②令和6年度保険料率の変更時期について、令和6年4月納付分(3月分)からで良いかの2点について、全体として10%を維持する方向で我々も考えたいと思うが、変更時期も含め事務局から説明があった通りでよろしいか。</p> <p>(評議員) 一同異議なし。</p> <p>2. 鹿児島支部の健康課題とその解決に向けた次年度事業方針にかかる意見伺い 資料に沿って事務局より説明。 <主な意見と回答> (事業主代表) 脳血管障害等の生活習慣病を発症するリスクを保有する人の割合で、鹿児島は土木・運輸業の割合が高率というのはなぜか。業務中に発症すると大変なリスクがあると思うが、それぞれの事業主や業界団体は認識はあるのか。</p> <p>(事務局) この結果を踏まえ、特に運輸業については、トラック協会・タクシー協会・バス協会を訪問し現状を説明したところ。トラック協会については、会報誌に定期的に記事を掲載していただいている。</p>

(事業主代表)

他団体との会議がある際に、今回の状況の数値等を口頭でも共有してもよいか。

(事務局)

分かりやすくまとめた資料を別途作成して提供させていただくので、よろしくお願いいたします。

(議長)

健診受診の啓発活動にあたるため、示しやすく分かりやすいデータの提供をお願いしたい。

(学識経験者)

健康経営の普及などで健診に対する意識は高くなってきているのではと思うが、健診を受けない理由をどのように分析しているのか聞かせてほしい。

(事務局)

被扶養者に関しては、事業主と支部長との連名で受診勧奨を行ったり個別に勧奨を行ってきたが、なかなか受診率が伸びない。今回、新たな受診勧奨を計画しているが、回答書を同封して健診を受けない理由等のアンケートをとる予定。健診を受けない理由等を把握すると共に電話番号を記載してもらい、電話勧奨を行う事業である。事業終了後、結果を報告させていただきたい。

(事業主代表)

鹿児島支部は健診受診率が低いということだが、高い支部の取り組みを教えてほしい。

(事務局)

被扶養者については、もともと市町村と一緒に健診をやっていた経緯があり特定健診に変わる際に、住民健診の流れで引き続き実施できたかどうかで受診率に差が出ている。鹿児島支部については、もともと生活習慣病予防健診で被扶養者も受診できていた時に、受診していた方々が特定健診では健診内容に物足りなさを感じている様子。また、若い年齢層は、40歳になって健診を受けるという認識が薄いように見え、若年者（40歳以下）を対象に周知していくことが必要と考えている。また、医療機関によって自己負担額が統一されていないことも原因の一つと考えており、利便性を工夫していくことが課題の一つと考えている。

被保険者については、鹿児島県の特徴として中小企業が多く、少人数の事業所では健診の

習慣化が難しい、被保険者本人の業務が忙しく受診に結びつかないなどの理由がある。健康経営を啓発しても、一人一人が行動変容を起こさないと結果が出ないため、引き続き一人一人の意識啓発の取り組みが必要と考えている。

(学識経験者)

健診受診率が低い部分で、被扶養者の健診では対象者に主婦が多いと思うが、物価の高騰も原因があるのではと思う。費用の面で何かないと受診率を上げるのは難しいのでは。また、生活習慣病予防健診の自己負担額の軽減により、過去より受診者が増えたのか。増えたのであれば、PRすればもっと受診者が増えるのでは。

(事務局)

現在の状況では全国と比べて少し伸び悩んでいる様子だが、徐々に効果が出てくるのではと思う。ただし、自己負担額が軽減されても、がん検診が業務に支障が出ることを考慮し生活習慣病予防健診に置き換えられない事業所もある。健診機関の協力を得ながら、がん検診の重要性を理解してもらうことが大事だと考えている。鹿児島支部としては、直接被保険者本人に自己負担額の軽減の案内を送付したばかりなので、効果を見ていきたい。また広報活動としては、健診案内のラッピング電車を走行させたり、県内の商工会議所や商工会を訪問し協力をいただいて広報しているところである。

(被保険者代表)

診療時間外受診が多いのは何か理由があるのか。

(事務局)

鹿児島支部は他支部と比べて時間外受診、中でも休日受診が多いことはわかっているが、年齢別・疾病別・地域別など、今後分析を進める予定。また、「#8000」の周知度が低いため、もっと広報し利用してもらい受診の判断材料の一つとして活用していただきたいと思う。

(被保険者代表)

勤務時間を1時間短縮しアンケートを取ったという事業所があり、男性で子供の迎えに行けたという意見もあった中、一番は時間内に病院に行けたという意見が圧倒的に多かったとのこと。今後は、時間有休制度を取り入れるなど参考にさせていただこうと考えている。

(被保険者代表)

「#8000」の利用者が少ない事について、アピールの方法も考えていかなければいけない

のではと思う。鹿児島県がもっと意識して県民全体で取り組むべきなのではと思うので、鹿児島県と連携が必要と思う。

特定健診については、きっかけ次第で年に1回は健診に行かなくてはいけないと思うようになるので、若い方に早い段階で気づいてもらう事が大事だと思う。

(事務局)

鹿児島県との連携については、現在、鹿児島県が医療費適正化計画を策定しており会議に支部長が出席している。会議の際に発言し、県と一緒に取り組んでいけるようにしたい。また、若い世代への周知に関しては、対象者35歳以上へ広報などで取り組んでいきたい。

(学識経験者)

コロナワクチンの通知はみんな意識して中身を見るので、健診の案内もワクチン同様意識して見てもらえるようになると良いと思う。

(事務局)

参考にさせていただきたい。

(事業主代表)

喫煙習慣のある人の割合の高率について、鹿児島支部は全国32位ということは高い方に該当するのか。

(事務局)

平均より高いという意味で掲載している。

(事業主代表)

生活習慣病の発症に対して喫煙習慣は、非常に影響力があるということでよいか。また、医者によっては因果関係はないと言って吸っている方や、税金を多く払っているから文句ないだろという方がいるが、そんな方々がいろんな病気になった場合の医療費を喫煙していない方々も負担しているということになるのか。

(事務局)

その通りである。

(事業主代表)

半分以上の喫煙していない方々が医療費を負担している状況を周知していくべきだと思う。喫煙スペースについても随分減っているが、もっと減らしていくべきだと思う。

また、献血に関して調べていただきたいのだが、まず献血ができるということは非常に健康の方ということになる。献血の受診率を上げれば、コロナで失った血液の保存量も解決出来るし、献血をすることによって必要最低限の健康状態が自分でアプリを使用し把握できる。全国で献血を活発に行っている県とそうでない県を比較して、医療機関受診率や入院などの因果関係を調査できるのであればお願いしたい。献血結果を見て、重症化する前に病院へ行く、毎年健診を受診しようなど良い方向に繋がるかもしれない。また、70歳以上で健康で元気な方もいるため、献血の年齢制限を見直すことも改善するべきではと思う。

(事務局)

献血はBMIが30以上だとできないことを最近知った。理由として糖尿病の方は献血できない仕組みで、30以上ある方も同じ扱いになるため出来ないということを教えてもらった。分析についてチャレンジしていきたいため、相談させていただければと思う。喫煙に関しては、県・市町村と協力して出来ることをやっていきたいと思うので参考にさせていただきたい。

(議長)

時間外受診に関して、休みが取りづらい・女性に手厚くないなどの社会構造が関連しているのではと思う。「#8000」は時間外受診を直接抑えるカギになるかもしれないので、周知活動をしっかりやっていただきたい。ジェネリック医薬品について、品質の問題が露呈してしまった背景があるため、厚生労働省がチェックをしっかりとしていく体制が必要。まずは、「#8000」の啓発運動をお願いしたい。

(事務局)

ジェネリック医薬品の安全性確保は大切だと思う。鹿児島支部においては、ジェネリック製薬会社の不正の影響はあまりなく、使用率は高い状況である。時間外受診の背景には、鹿児島県は全国でも共働きの割合が高いため、社会構造の問題は大きいのではと改めて思う。もっと「#8000」の周知を進めていきたいと思う。

(被保険者代表)

被扶養者健診の促進について、案内を送付する際に早期発見の成功例や健診がきっかけで健康になったというビフォーとアフターなど、受診したメリットを伝えるということが効果的なのではと思う。

(事務局)

実は健診を受けた後が大事で、健診結果から自分の健康状態を把握し、対象となる方は保

健指導を受けていただきたい。受けることによって生活習慣を改善し、結果、健康になったという成功例を伝えていきたいと思う。治療費が負担になるという方々には、ジェネリック医薬品や助成制度等を説明し、それも成功例があれば周知していきたい。

(議長)

是非とも良い成功例を積み重ねて周知していただきたい。

(被保険者代表)

健康企業宣言事業所の受診状況が他支部に比べて芳しくないとなっているが、受診状況が高いから宣言しているのでは、意味合いを教えてください。

(事務局)

他支部では宣言事業所とその他では受診率に相当な差が出ているが、鹿児島支部の場合は宣言事業所とその他を比較するとあまり差がないのが現状。現在、宣言については、全国統一したスキームに変更しているところで、鹿児島支部は99%変更済みである。その中で健診と保健指導の受診率が低い事業所に対し、きめ細やかな対策を下期から取り組んでいく予定である。受診率を上げる方法として案や意見があれば伺いたい。

(事業主代表)

鹿児島県は中小企業が圧倒的に多い。入札等の参加資格で、健診を受診している保健指導を受診しているなど、新たな項目を入れてみては。検討してみる価値はあるかと思う。

(学識経験者)

健診に対して、分かりやすい目安を明確にするのも一つかと思う。何歳になったらどういうリスクがあるなど、年齢はすごく目安として分かりやすい項目になる。

(事務局)

特化したメッセージを入れて案内することが必要かと思うので参考にさせていただきたい。

3. その他

特段の意見なし

以上

特 記 事 項

次回評議会：令和6年1月 開催予定

今回の傍聴者：なし